

策定趣旨

全国的な下水道施設の老朽化に伴う事故の発生や自然災害の頻発化・激甚化のほか、札幌市では2021年に人口が減少局面に移行したなど、札幌市の下水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、脱炭素社会・循環型社会の実現や感染症対策への貢献、上下水道一体となった取組の推進など下水道事業に求められる役割は多様化しています。

このような状況の中、下水道を未来へ引き継いでいくため、地球環境保全に貢献しながら、着実に施設の改築・再構築などの取組を進めていくことが重要です。あわせて、地方公営企業として持続可能な経営環境を確立していく必要があります。

そこで、市民、企業、行政などの多様な主体が札幌市の下水道の目指すべき方向性を共有し、共に取り組んでいくために、今後の中長期的な下水道事業の方向性と事業計画、財政収支計画を示す「札幌市下水道ビジョン(2026～2034)」を令和8年3月に策定しました。

基本方針と基本目標

- 基本方針

札幌市民の暮らしを支える下水道を未来へつなぎます
- 基本目標

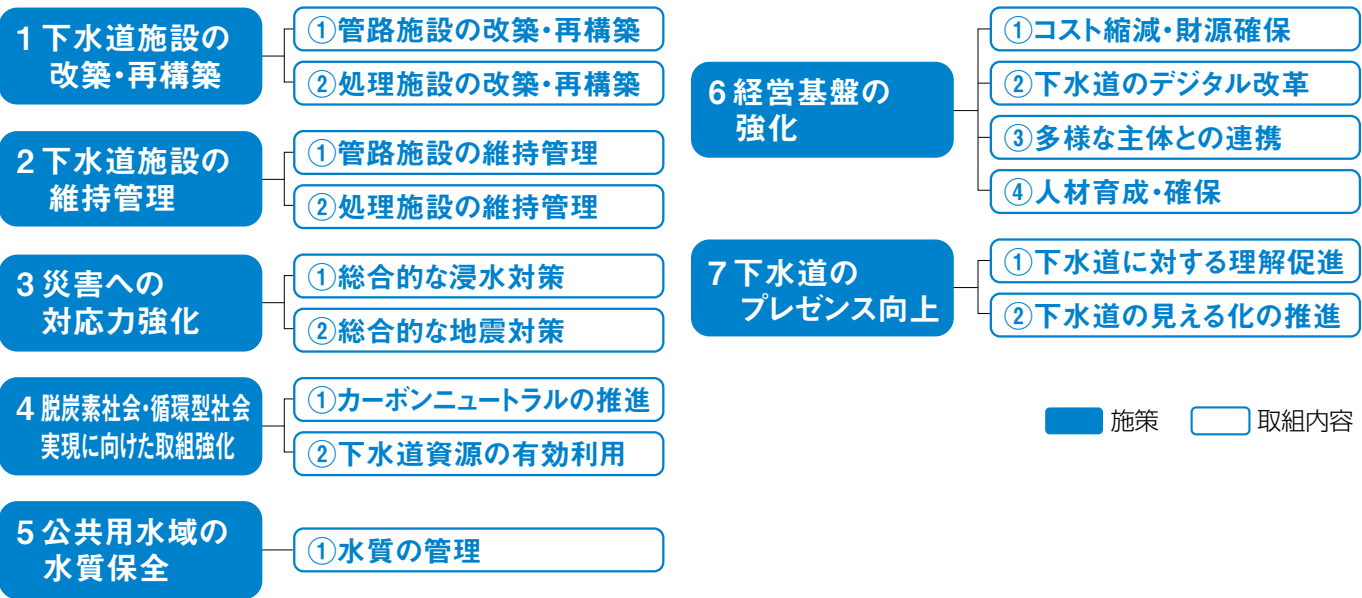
I 市民の安全・安心な暮らしを支えます

II 下水道のポテンシャルを生かし、地球環境保全へ貢献します

III 持続可能な経営環境を確立し、質の高い下水道サービスを提供します

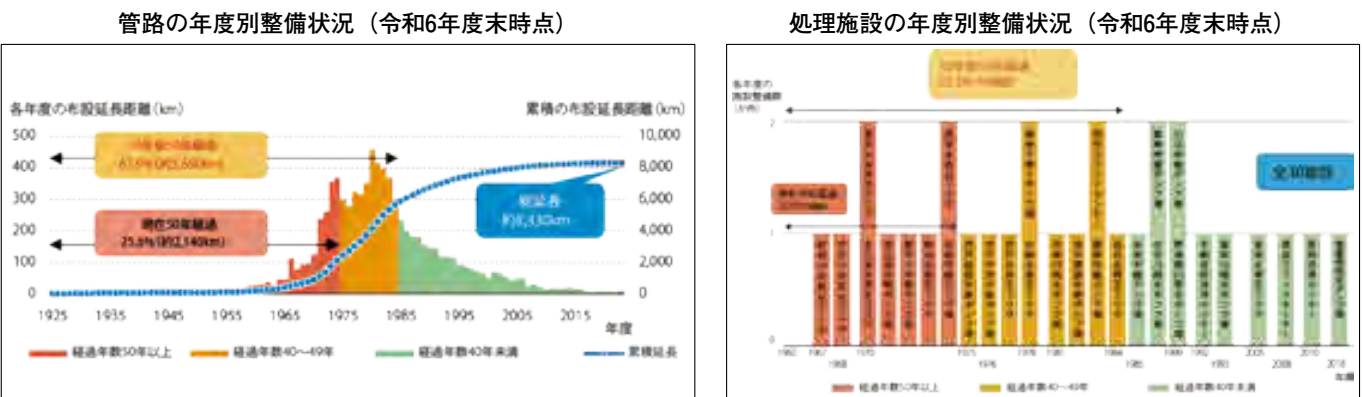
施策と取組内容

3つの基本目標を達成するため、7つの「施策」と15の「取組内容」を定めています。



札幌市は、約8,300kmに及ぶ下水道本管や10か所の水再生プラザなど、非常に多くの下水道施設を抱えています。これらの多くは、昭和47年の札幌冬季オリンピック開催を契機として昭和40年代から50年代に集中的に整備された施設であり、老朽化が進行しています。

日々の市民生活や社会経済活動を支える下水道の機能を将来にわたり維持できるよう、「札幌市下水道改築基本方針」のもと、可能な限り延命化を図りながら、計画的に改築事業を進めていきます。

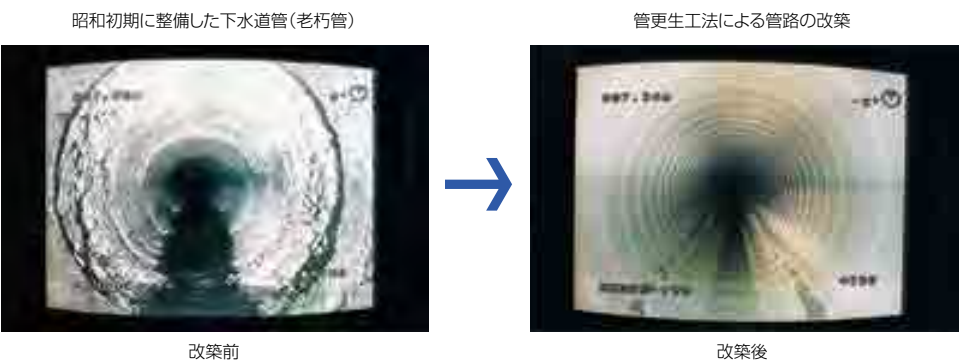


● 管路の改築

下水道の整備を早くから進めてきた都心部では、下水道管の老朽化が進んでいます。

札幌市では、下水道管内の破損状況・老朽化の診断をするためにテレビカメラ調査を行い、それらの結果をもとに下水道管の入れ替えや管更生工法*により管路の改築を行っています。

※管更生工法…既設の管路の内側に、新たに樹脂製の管体を生成し、管路を再生させる方法



● 水再生プラザ・ポンプ場の改築

水再生プラザ・ポンプ場では、さまざまな機械電気設備が24時間休みなく稼動していますが、こうした設備の耐用年数は一般に15～20年とされています。札幌市の水再生プラザやポンプ場は、昭和40～50年代に集中して建設されており、耐用年数が過ぎている設備もあることから、設備の機能評価や修繕を行い、延命化を図りながら効率的な改築を順次進めています。

また、設備の改築にあわせて、効率の高い設備や再生可能エネルギーを活用する設備の導入等により、エネルギーの削減を行っています。

